

野菜の需給・価格動向レポート(平成21年10月9日版)

参考資料 1

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	9月の価格動向				10月の見通し		
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額(上段:関東、下段:近畿)(速報値)	上旬	中旬			下旬
					主産地の概況	卸の見通し(関東、東京青果株)	
キャベツ	74.19	95	86	79	・入荷見込量:15,340t(100) ・主産地:群馬(52)、千葉(17)、茨城(11)、岩手(9)	群馬県では、作柄は平年並。8月上旬までの曇雨天や降雨の影響で小玉傾向。10月は気温がやや高く、降水量はやや少ないと予想されることから、回復が見込まれ出荷量は前年並みの見込み。	今年には高原と平野ものの競合は昨年ほどではないと予想。入荷は平年を下回り価格もほぼ平年並の見込み。
	93.59	95	91	87	・入荷見込量:3,900t(99) ・主産地:群馬(41)、長野(29)、茨城(16)	・主産地は群馬、千葉、愛知	
ねぎ (関東:白ねぎ、関西:青ねぎ)	273.33	238	210	200	・入荷見込数量:6,250t(100) ・主産地:青森(27)、秋田(13)、北海道(11)、茨城(11)、新潟(7)、山形(7)、岩手(5)、埼玉(4)、輸入(2)	埼玉県では、8月中旬以降天候に恵まれ、秋冬向けの定植作業はほぼ計画的に実施。品種によって一部に病気が散見されるが、全体的に生育は順調。平年並みの出荷を見込む。	東北は昨年を上回るが関東は昨年ほど多くないと予想している。入荷は平年を下回り価格は平年比で高い見込み。
	512.77	347	358	311	・入荷見込数量:250t(101) ・主産地:香川(29)、大阪(21)、徳島(17)、高知(12)、奈良(6)	・青森が出荷最盛期	
はくさい	82.17	86	85	78	・入荷見込量:13,280t(102) ・主産地:長野(64)、茨城(21)、北海道(9)	主産地は長野県は平年を下回る出荷。10月にはほぼ平年並に回復する見込み。	遅れていた長野が徐々に回復し量的には前年並み。価格もほぼ前年並の見込み。
	98.58	84	92	79	・入荷見込量:5,400t(100) ・主産地:長野(86)、茨城(9)	・これから主産地が茨城に移る。	
ほうれんそう	583.95	546	564	428	・入荷見込量:1,790t(100) ・主産地:群馬(34)、茨城(16)、栃木(14)、岩手(12)、千葉(11)、埼玉(7)	群馬県では、作柄は平年並。10月の好天予想から順調な生育により、出荷量は前年並みの見込み。	量的には順調で前年並み。価格は平年比でやや安い見込み。
	670.86	583	630	500	・入荷見込量:490t(99) ・主産地:岐阜(55)、北海道(11)、和歌山(11)、徳島(10)、奈良(8)	・これから関東が出荷最盛期	
レタス	166.60	144	135	89	・入荷見込量:8,750t(104) ・主産地:茨城(58)、長野(28)、栃木(6)	茨城県では、定植作業も順調に経過し、生育も良好。病害虫の発生も少なく、品質・肥大状況は並みからやや良と見込まれる。出荷量は平年並みと予想される。	茨城が順調で多く、長野も播き直し分が多いと予想され、入荷は平年を上回り価格は平年より安い見込み。
	160.60	150	143	92	・入荷見込量:1,700t(109) ・主産地:長野(48)、茨城(27)、兵庫(19)		
たまねぎ	76.15	115	108	101	・入荷見込量:10,910t(95) ・主産地:北海道(94)、輸入(6)	主産地は北海道、9月から出荷量は徐々に回復。10月中旬から晩生が出荷されるが、小玉傾向で出荷量は平年並を下回る見込み。	夏場の天候不良の影響から北海道産玉ねぎは不作傾向。9月に引き続き小玉が多く、出荷量は伸び悩むが引き続き高値での取引となるだろう。
		116	114	103	・入荷見込量:3,300t(86) ・主産地:北海道(61)、兵庫(35)		
きゅうり	210.69	248	173	117	・入荷見込量:6,490t(100) ・主産地:埼玉(33)、群馬(20)、茨城(15)、福島(10)、栃木(7)	埼玉県では、9月上旬から出荷を開始。順調に推移している。若干曇雨天気味であり、一部で病害の発生も見受けられるが、全体的に生育は概ね順調で、平年並みの出荷を見込む。	東北は残量もあって量的には潤沢と予想している。価格は昨年を下回るが平年並の見込み。
	221.71	239	183	129	・入荷見込量:1,350t(106) ・主産地:福島(23)北海道(18)、宮崎(17)大阪(8)、愛媛(7)、山形(6)	・10月は埼玉が出荷最盛期	
トマト	218.58	419	382	312	・入荷見込量:6,330t(100) ・主産地:千葉(24)、茨城(21)、青森(12)、福島(11)、愛知(6)、群馬(4)	茨城県では、低温により、色づきがやや遅れ気味。一部ほ場では、軟弱徒長や芯止まり株が見られる。しかし、全体的な生育は概ね順調であるため出荷量については前年並みかやや増加傾向と予測される。	遅れた青森産が10月に急増し、さらに西南暖地も順調と予想される。
	271.33	432	396	355	・入荷見込量:1,300t(100) ・主産地:岐阜(20)、北海道(18)、熊本(12)、岡山(11)、石川(8)、愛知(7)、愛媛(5)	・10月は千葉、茨城が最盛期	
なす	209.55	236	230	169	・入荷見込量:4,110t(100) ・主産地:高知(24)、栃木(22)、茨城(16)、群馬(16)、福岡(5)	栃木県では、日照不足と乾燥の影響で生育が遅れ、平年同期と比べて収穫量が少ないが、生育は回復傾向。一部に病害虫の発生も見られる。	順調で潤沢な入荷が予想される。量的には前年並、平年比では安い見込み。
	221.72	225	216	158	・入荷見込量:810t(100) ・主産地:徳島(21)、奈良(17)、高知(14)、京都(11)、岡山(6)、熊本(5)、茨城(5)	・10月は高知、栃木が出荷最盛期	
ピーマン	263.58	257	225	189	・入荷見込量:2,140(100) ・主産地:茨城(66)、岩手(15)	茨城県では、順調な生育。品質・肥大ともに良好である。害虫が若干発生しているが、出荷量及び作柄は平年並と予測される。	東北は少なめで平年並の入荷で価格は平年比より若干安い見込み。
	282.16	303	253	198	・入荷見込量:390(100) ・主産地:兵庫(15)、宮崎(15)、福島(13)、北海道(12)、高知(12)、愛媛(8)	・10月以降は茨城が本格化	
だいこん	99.58	111	92	70	・入荷見込量:13,930t(101) ・主産地:北海道(35)、青森(28)、千葉(21)、岩手(6)	主産地は北海道。7、8月の天候不順で小ぶり傾向。出荷量は平年を下回る見込み。	北海道の播き直し分が多く残って入荷は前年を上回り価格は平年を下回る見込み。
	111.54	112	98	74	・入荷見込量:5,200t(100) ・主産地:北海道(28)、石川(27)青森(11)、新潟(10)、岩手(6)	・北海道が本格化。	
にんじん	129.56	130	127	117	・入荷見込量:8,160(98) ・主産地:北海道(91)	主産地は北海道。7月からの天候不順で小ぶり傾向。出荷量は9月に引き続き平年を下回る見込み。	北海道はM中心と小振りで箱数が伸びず入荷は前年を下回ろう。
	129.59	134	126	116	・入荷見込量:2,800(102) ・主産地:北海道(93)	・主産地は北海道。	

種類	9月の価格動向				10月の見通し		
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定期野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額(上段:関東、下段:近畿)(速報値)	上旬	中旬		下旬	
いも	242.66	256	227	193	・入荷見込量:1,520t(104) ・主産地:埼玉(35)、千葉(33)、栃木(8)、輸入(4)	埼玉県では、生育期間の日照が少なめあったが、適度な降雨に恵まれたことから生育は順調であり、作柄は概ね良好である。	千葉産の早生種が切り上がり、埼玉産の入荷が増え始める。生育は順調で高品質だが、入荷増の影響で価格は伸び悩む。入荷量は前年を上回る見込み。
ばれいしょ	96.77	117	113	112	・入荷見込量:7,890t(97) ・主産地:北海道(98)	主産地は北海道。9月は好天に恵まれ、収穫が順調に進み、10月に入れば出荷量は増加する見込み。品質は小玉傾向となっている。	夏場の天候不良による価格の高騰も徐々に落ち着きを見せ始めたが、今年の北海道はやや不作で小玉傾向のために引き続き堅調な価格推移となるだろう。入荷量は前年を下回る見込み。

1) 平均価格は、過去9年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)。
 2) 旬別平均販売価額の青は保証基準額を上回るもの。赤色は下回るもの(消費税は除く)。
 3) 単位は円/kg

1) 入荷見込量は関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。
 2) 主産地は東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
 3) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人等からの聴取りをもとに機構が作成したものである。

1) 「卸の見通し」の内容は、東京青果株式会社「野菜展望」をもとに機構が編集したものである。
 2) その後の気象条件の変化等により変動があり得る。

2 野菜の需要動向

家計調査でみると、8月の1人当たりの生鮮野菜の購入量は、4.321g、対前年比104%となっているが、購入金額については、1,648円、対前年比98%となっている。

また、小売物価統計によると、9月のキャベツの小売価格は過去5年平均比121%、レタスは同94%となっている。

1 生鮮野菜の購入量及び金額

(1人当たりの購入量、金額)

年	過去5年平均		平成20年		平成21年	
	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)
1月	3,981	1,524	4,341	1,479	4,276	1,548
2月	4,218	1,566	4,471	1,582	4,536	1,529
3月	4,527	1,692	4,763	1,735	4,799	1,685
4月	4,667	1,775	4,896	1,786	4,783	1,805
5月	5,068	1,876	5,020	1,876	5,215	1,918
6月	4,955	1,860	5,026	1,878	5,179	1,888
7月	4,391	1,681	4,446	1,673	4,644	1,648
8月	4,257	1,648	4,392	1,619	4,321	1,752
9月	4,678	1,730	4,934	1,763		
10月	5,110	1,814	5,437	1,829		
11月	4,832	1,576	5,036	1,601		
12月	5,041	1,779	5,145	1,869		

資料:総務省「家計調査報告(二人以上世帯農林漁家世帯を除く)」

2 主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移

	キャベツ		レタス	
	過去5年平均	平成21年	過去5年平均	平成21年
1月	199	197	612	629
2月	192	179	535	449
3月	194	176	484	452
4月	225	233	437	460
5月	177	205	372	384
6月	161	145	360	324
7月	158	136	331	310
8月	157	159	416	523
9月	146	177	483	453
10月	166		539	
11月	175		492	
12月	171		512	

注1:過去5カ年は平成16~20年
 注2:9月の値は、9月中旬の速報値

資料:総務省統計局「小売物価統計調査報告」

3 野菜の輸入動向

中国からの野菜の輸入量は、平成19年には141万トンであったものが、20年には、87%の114万トンとなっており、さらに21年1~8月では対前年同期比92%の70万トンとなっている。

9月については、植物防疫検査統計によると、たまねぎについては前年同期比88%、にんじん91%、ねぎ70%となっている。

野菜等の輸入数量の推移について

(単位:トン、%)

区分	平成20年		平成21年1~8月		8月	
	前年比		前年比		前年比	
生鮮野菜	597,171	75	414,165	95	41,541	128
加工野菜	1,660,662	98	1,043,196	93	131,141	98
野菜輸入量合計	2,058,401	90	1,457,361	94	172,682	104
うち中国産野菜合計	1,147,126	87	706,232	92	88,921	106
中国産シェア	56		48		51	

資料:財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入動向

(単位:トン、%)

品目	輸入先	(A)2008.9	(B)2009.9	(B)/(A)
		たまねぎ	合計	14,029
	中国	14,793	16,951	114.6
	米国	128	946	739.1
にんじん	合計	3,739	3,870	103.5
	中国	3,716	3,413	91.8
	米国	22	14	63.6
ねぎ	合計	3,209	2,257	70.3
	中国	3,209	2,255	70.3

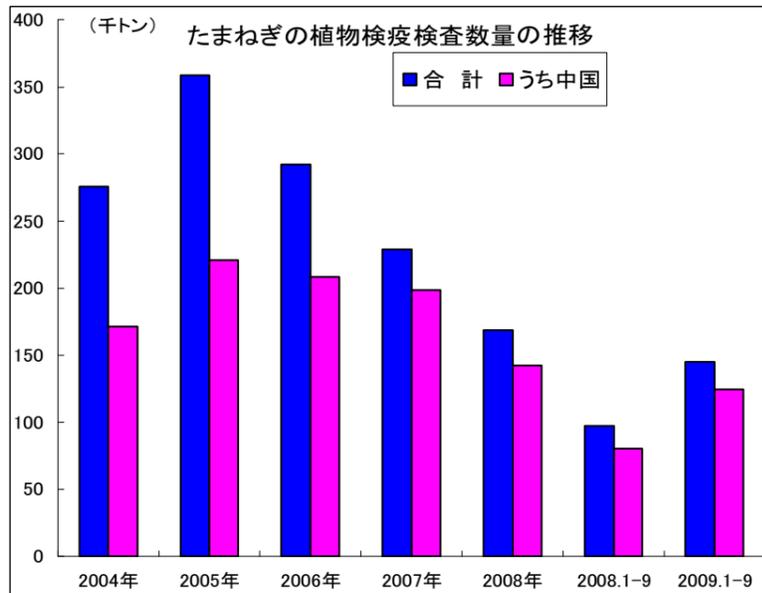
資料:農林水産省「植物防疫検査統計」(2009.9は10月第1週現在で速報値である。)

4 トピック

たまねぎの輸入について

たまねぎの輸入は2005年(358千トン、うち中国産220千トン、植物防疫検査数量ベース以下同じ)をピークに、中国国内において2006年4月に農産物品質安全法が公布、2006年11月施行され、輸出野菜に関する安全性が厳格化される(日本:2006年5月日本ポジティブリスト施行)等により減少してきており2008年には168千トン(うち中国産141千トン)と半減した。

2009年には、国内産たまねぎの品薄感から3月から前年を上回って推移し7~9月には対前年同月比約25%増(1~9月の対前年同期比55%増)となっている。



資料:農林水産省「植物防疫検査統計」

